

V73a ALMA 初期運用 Cycle0 の現状報告と今後

奥村幸子、齋藤正雄、西合一矢、樋口あや、Daniel Espada、Erik Muller、河村晶子、黒野泰隆、永井洋、谷田貝宇、Bhola Panta、小杉城治 (国立天文台)

2011年3月31日に、ALMAの最初の科学運用 Cycle0 のプロポーサル募集が開始された。Cycle0 では、2011年6月1日から30日までの1ヶ月間、観測プロポーザルを受け付け、7-8月で審査を行い、9月にはユーザーにその採否が通知される。Cycle0 で採択された観測は、ALMAの建設や科学評価活動と平行して、9月30日から翌年6月30日までの約9ヶ月間に渡って実施される。各地域のユーザーは、ALMA Science Portal と呼ばれるウェブサイトでユーザー登録を行い、そこから提供されるツールを使って、プロポーザルの準備・投稿から、観測実行プログラムの作成・その後の観測ステータスのモニターまでを行う。観測後は、地域センターのアーカイブシステムから得られた観測データ及び簡易修理済みデータ等の関連情報をダウンロードして、研究を遂行する。

現時点(6月中旬)で、東アジア地区では200名を超えるユーザー登録があり、プロポーザル投稿のための準備が進んでいる。東アジア地域センターでは、5月に2回、6月に1回、プロポーザル作成ツールの講習会を三鷹で実施(参加者、計70名程度)し、ALMA ワークショップや大学・関連機関に向いての講演・ミニチュートリアルをのべ10回実施した。また、米欧の地域センターとも協力して、ALMA の *Helpdesk* システムを運用し、ユーザーからの個別の質問に答える活動も行っている。6月30日 UT15:00 (日本7月1日 JST0:00) のプロポーサル締め切り後、すべてのプロポーザルは、共通の1つのプロポーサル審査委員会の下で、科学的な評価及び技術審査が行われ、採否が決定される。本講演では、最終的なプロポーサル数や採択されたプログラムについて統計的な内容を解説し、加えて、Cycle0 の実際の科学運用に関する最新の情報を紹介する。